

知事と区市町村長との意見交換（千代田区）

令和1年9月19日（木）

16時15分～16時35分

○**行政部長** 石川千代田区長が入室をされます。ご着席をお願いいたします。

それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** 座ったままで失礼いたします。本日も多用の中、石川区長には懐かしい都庁まで、懐かしくありませんか、ご足労いただいております。ありがとうございます。都政運営に大変いつもご協力いただいておりますこと、感謝申し上げます。

そしてラグビーワールドカップが、いよいよ明日からでございますし、東京大会も1年をとっくに切っているという段階にありまして、東京都が今後の在り方等、長期戦略を策定しよう。年末にはビジョンをまずお示しをし、そしてまたそれぞれ肉付けをしながら、今後の東京のあるべき姿ということで、区市町村の現場の皆様方からご意見を伺うという趣旨でございます。

限られた時間ではございますけれども、ざっくばらんなところも含めまして、こうあるべし、また目下の問題もさることながら、今後の展望も含めてお話を伺えればと思っております。よろしくをお願いいたします。

○**行政部長** それでは石川区長、ご発言よろしく申し上げます。

○**千代田区長** まず、このような場を知事自らが設けていただきましたことを、冒頭、感謝を申し上げます。

今日は私がトップバッターだそうで、私がこういう場で昔のことをお話しするとは思わなかったのですが、今、日本は人口減少社会という中で、自治体として一番取り組まなければならないのは少子高齢化への対応だろうと思っています。実は、少子・高齢化というネーミングは、私が都の福祉局長の時に名付けました。少子化・高齢化のどちらを先にするかという議論も当時はありました。その時の都政は高齢化社会への課題が中心でしたが、必ずや少子化の問題にも発展するだろうということで、少子・高齢化に向けた白書や計画を作りました。その後、厚生労働省も少子化対策のプランを出しました。少子化問題と高齢化問題というのは表裏一体の課題だと認識しています。

子ども達が健やかに生き生きとこの東京で生活できるということは、高齢者にとっても、良いことですし、お年寄りが幸せに暮らしている姿を子ども達が見て、やはり東京は良い街だな、住み続けたいなという気持ちになるのだろうということで、少子高齢化という造語を作ったわけです。まさに今、それが当たり前の社会になっているということで、この場でこういうお話ができることを光榮に思っております。

これからの社会でこの問題をしっかりと長期的に取り組んでいくということが、肝要だろうと思います。また、これは都政だけでは解決できない問題で、基礎的自治体と両方で手を携えて乗り越えていかなければなりません。特に高齢化の問題というのは、人生100年時代と言われる中で、時間がかかり財政的な面での必要性も求められるだろうと思いま

す。

ある面では、社会保障改革が叫ばれ、給付と負担の関係が出てまいりますと、必ず都民に様々な形で影響を与えるだろうと思います。お互いにどのような施策をつくっていくかということが、長期的な戦略として一番大切なだろうと思います。

まさに東京に住み続けたい、住んでいて良かったと思えることは、その地域社会を構成する住民にとって、少子高齢化への戦略的な対応が重要になり、都政においても、区市町村でも、大きな課題になってきています。今日はこういうお話をさせていただき、具体的な施策はこれからのお話だろうと思いますが、ぜひその辺のご理解を賜りたいと思っております。

それから二点目は、ここにも書いてありますが、障害者の課題であります。来年パラリンピックも開催されるわけですが、障害者の関係は、高齢化施策にもつながるものだと考えております。

歳を重ねますと、当然何らかの形で心身にハンデを持つことになりますので、障害者に向けた施策を行うことは高齢者施策にも通じるものがあると思っています。障害者の施策の中で、障害そのものを意識せずに暮らせる地域社会を創りあげることが一番望ましいわけです。すなわち、障害があるということをひとつの個性であるという、そういう社会づくりを実現していただきたいと思っております。

これはまさにオリンピック・パラリンピックの最大のレガシーにつながるものと考えておりますので、この辺もしっかりと、区市町村の役割でもありますが、都政の上でもそういう視点で長期的計画の中で戦略的に取り組んでいただくことが、肝要だろうと思っております。

あとは特段ございませんので、何かございましたらお聞かせいただきたいと思います。

○知事 ありがとうございます。千代田区は、既に待機児童数もほぼ0で推移をしてきているということであります。以前から大変この待機児童等の問題についても熱心に取り組んでおられる、その成果かと思っております。

前にお目に掛かった際に、要はそのダブルインカムになって、逆に区税の方からもいろいろと少子化対策というか、待機児童対策にもこの費用を投じてはいるけれども、一方でダブルインカムによる区税の収入が増えている傾向があるというようなお話を伺ったのを覚えているんですけども、その辺についてお話いただけますでしょうか。

○千代田区長 当然、今の日本社会の中で経済成長というのはなかなか難しい話だろうと思います。従って、自治体の歳入というのも、住民税を中心に考えれば伸びにくいというのが実態だろうと思います。

その中で、保育政策を重点的に進めるということは、子どもを中心に保護者という課税対象も増えていくことになります。はっきり申し上げれば、住民が増えていることにプラスして課税人口も増えるということになります。ある経済学者は、無意味な公共投資を行うより、保育政策に力を入れた方が自治体の歳入に結び付くと言っています。もちろん、福祉施策は投資の対象にすべきでないことは言うまでもありませんが、税収増という視点

では経済学者の当然の論理になっているようです。今、社会はそういう流れの中で保育というもの、あるいは学童クラブも含めて、財源を投入することが、結果的に自治体の税収増につながるのだらうと思います。当然それは人口増にもつながるわけです。

○知事 はい。ありがとうございます。それから環境対策も、これまでもお取り組みは大変熱心にされておられるところでもありますけれども、都の方から、都と連携してこういったことをもっと進めなければならないとか、今、何か具体的にありましたら。

○千代田区長 全国の自治体の中で最初に温暖化対策条例をつくり、京都議定書で定めたCO₂削減の数値目標を入れ、2020までにCO₂を1990年比で25%削減するなどを行ったのはおそらく千代田区が初めてだと思います。やはりこれは温暖化対策も含めて、このことを実現することが最終的には地域の価値が上がるという思いで取り組んでいます。

しかし、現実に街づくりが進んでまいりますと、エネルギー消費量が多くなり、そのエネルギーの元がCO₂の発生要因になっているということです。そこで、再生エネルギーの活用をどのように組み込むかということについては、都政の中から打ち出していただけないかと思っております。特に大都市の場合は、そのためのインセンティブをどのようにするかが鍵だらうと思います。

現実には、条例に基づく数値目標の達成には苦勞しておりますが、再生エネルギーを導入する時に、いろいろな支援をしているというのが街づくりの対応です。ぜひそういう意味では都政も同じ思いで、しっかりと街づくりの施策として取り組んでいただきたいと思っております。

○知事 千代田区は環境について、これは一つの目安で森記念財団の発表した都市の特性評価というのがありまして、千代田区は2年連続で首位ということでもあります。そして環境の面は、これまで少し低位だったんですけれども5位に上がっておられる。それは評価したのが電気自動車の充電スタンドの充実だと。マンション群が多いと思いますし、また、企業ですよ。オフィスビルも多い中で、充電スタンドを増やされたと。お住まいの方は大体夜の時間を使って充電されることが多いんですけれども、こういうのに対しても、都としても補助も出しているところで、ぜひここはそれぞれのビルのオーナーであるとか、お住まいの方々にEVの時代ということで、また区としてもよりPRしていただければと思います。いかがでしょう。

○千代田区長 ぜひ都政からもバックアップしていただきたいと願っています。今回の台風で千葉で起こった停電への対策をどのように考えるかが課題です。これは一自治体では解決できない問題ですが、電気の問題を基礎的自治体がどこまでカバーするかは、非常に大きな課題だらうと思います。

発電は自治体ではできないわけですが、どのような対策を講じるかは防災対策上も非常に重要なことですので、ぜひその辺はこれからの都政の長期プランの中でも施策として打ち出すことを検討したいと思っております。

○知事 もうそれらについては、今回の台風15号が、暴風というこれまでにない風が吹いたという点で、また新たな対策も必要です。ただ、一方で情報をどう伝えるかで、基地局

が壊れて、電気がなくなってしまったと。この辺についてもこれから 5G を、より進めていくにおいて、同じ課題を、より便利なものを提供し始めると、それが途切れた時の逆にマイナス面、ネガティブな面が多かろうと思います。その辺はキャリアの皆さんと連携しながら進めていきたいというふうに思っております。

地中熱研究所というのが千代田区にあるんですよ、確か。ですから地中熱というのも、なかなかもう既に住宅や事務所がびちっとある中で、これから掘りますというのはなかなか難しいところなんですけれども、これも一つの使える再生エネルギーだということで、PR したいと思っています。

○千代田区長 地中熱もトライはしていますが、コストがかかりすぎると考えます。環境問題はコストだけではないと言われますが、それにしても膨大な経費がかかることを認識しておく必要があります。

今回の台風の状態を踏まえて、電気は日々の暮らしの中でまさに空気みたいな存在になっていることから、長期間ストップする生活は考えられないわけです。しかし、一自治体として住民に供給するための発電設備を設けることは難しいわけですから、何らかの形で一定期間、電気をストックできる、そういう仕組みを作らざるを得ないだろうと考えます。電気がなくなると全部が止まってしまう。日々の生活やコンピューターから何からすべてが機能停止に陥ってしまい、全く仕事ができないということになります。そこはぜひ長期的な視点で一定の期間、停電などの非常時に都政としてどのように考えるかを、ぜひお示しいただきたいと思っております。

○知事 ありがとうございます。あと、猫ね。猫対策はもう本当に千代田区に、そのために千代田区に引っ越してくるっていう方がいらっしゃるぐらいですから、はい、もうそこはね、これまでの実績については誰もが認めておられるところだろうと思います。またいろいろとご要望もございますでしょうから、それは、今の話として取り組んでいきたいと思えます。

また、長期戦略において今日言い足りなかった部分等は、またお寄せいただければと存じます。

○行政部長 本日はご多用のところ、ありがとうございました。これで意見交換を終わらせていただきます。